

山形市

野草園だより

36号



シンボルマーク
原画 阿部功雲氏

ザゼンソウ (サトイモ科)

【開花 4月上旬～4月下旬】

本州中部以北の湿地に自生するサトイモ科の多年草です。外見上花のように見える器官は仏焰苞^{ぶつせんほう}とよばれ、この形が座禅を組んで修行をしている僧の姿に似ていることから「ザゼンソウ」の名がついたと言われています。仏焰苞内^{ぶつせんほう}にある本当の花は、4個の花被片^{かひへん}、4個の雄しべ、1個の雌しべ^{にくすいかじょ}からできていて、花の集合体である肉穂花序は紫黒色のこん棒のように見えます。ザゼンソウは、開花初期に自分で発熱するといった、他の植物にはない特徴をもつため、雪解けと同時に開花することが可能なようです。

平成20年度
写真コンテスト

最優秀・優秀作品

山下 忠さん
「カタクリを撮ろう」

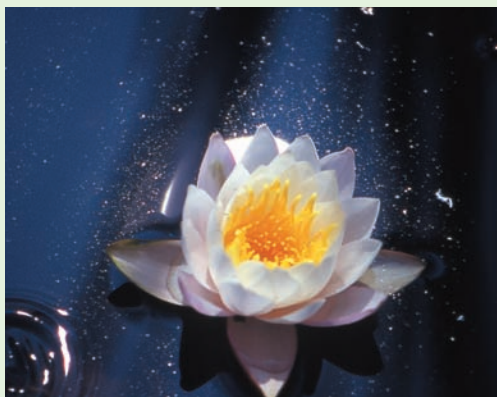


最優秀作品

山ノ内 昭彦さん

優秀作品

「貴婦人」



大江 栄治さん

優秀作品

「春のにおい」



審査を終えて

山形市野草園の15回目となった写真コンテスト、一般の部で58人から192点、小中学生の部では20人から64点、全体で78人から256点の応募がありました。

一般の部で最優秀の山下さんの「カタクリを撮ろう」は、題そのもの、春早く咲くカタクリを四人の人が写真撮影しているところを正面から写したもので、逆光の中で四人の表情や動作がよく出ており、また、構図も余分なものを排除しシンプルにまとめ、テーマに合致した大変良い作品と思います。

小中学生の部、最優秀は西村君の「情熱」となりました。この作品は、まむし草が赤い実をいっぱいにつけ、燃える炎のようになっているのをストロボ発、ピント、色、構図も決まっております。さらに、大人ではちょっと思いつかない情熱とした題も大変に良かったと思います。

全体的には毎年レベルが向上しており、特に花或いは花と蝶やトンボをあしらったものに優れた作品が多く見受けられ、審査に迷いながらも今更のように被写体の豊富さに驚き、野草園の魅力が感じられました。最優秀を始め入賞者の皆さん、おめでとうございます。これからも野草園のかくれた魅力、新しい魅力を引き出すような、すばらしい作品創りに励まれますように切望いたします。

平成20年11月1日 審査員代表 金田 春雄

小中学生の部 最優秀作品

西村 太一 さん
「情熱」





自然のたくみさ・ふしぎさ



●●● 知名度の高い木のひとつ ●●●

学習センターから東に伸びるエゾアジサイの道を抜けると、道の両側にまっすぐに伸びた2本の木が見えてきます。この木は、園内案内中、「何という木でしょう？」と質問してもすぐには答えがなかなか返ってこない木なのですが、「愛染かつらと同じカツラの木です」と説明すると、ご年配のみなさんは、納得されたように、木を見る目が輝いてきます。映画の「愛染かつら」は、東京都台東区にある愛染明王を祭った愛染堂前の古いカツラの木をヒントに、川口松太郎氏が書かれた同名小説を映画化した作品です。昭和13年と古い作品ですが、歴史的な大ヒット作品のためか、いまだに多くの方の記憶に残っているのでしょう。

今回はこのカツラの木に注目して観察してみることしましょう。

●●● 甘い香りの不思議な木 ●●●

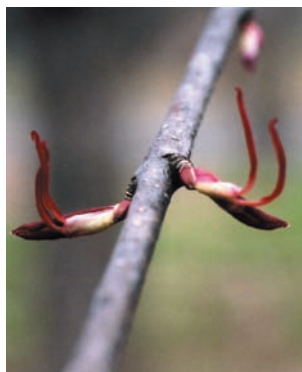
カツラ科カツラ属に分類される「カツラ」（学名：Cercidiphyllum japonicum）は、樹高30mにも達する落葉高木です。国内では北海道から九州にまで分布しています。よく萌芽しやすい特徴をもっているため、株立ちになっているものも多く見られます。

カツラの花を観察してみましょう。カツラは雌雄異株のため、雄花と雌花を同じ個体で観察することはできませんが、園内には両方の個体がありますので散策しながら探してみましょう。



・開花時期のカツラの枝（赤く見えるのは雌花）

5月、まだ展葉前のカツラの木に、何やら赤っぽいひも状のものが観察できます。カツラの場合、コブシの木のような立派な花をつけません。雄花も雌花も基部に膜質の葯があるだけで花弁やガク片はないのです。雄株の葉腋には、長さ約3mmほどの紅紫色をした葯を付けた多数の雄しべが見られます。これが雄花です。雌株はというと、これも葉腋に4本前後の先端部が紅色をした雌しべを見ることができます。これが雌花です。受粉に成功した雌花では、秋に向け長さ1.5cmほどの袋果を成長させていきます。



・雌花



・雄花

今度は葉を観察してみましょう。カツラの葉は、3cm程の赤みをおびた長い柄をもち、広卵形、基部は心臓形の丸っぽい形をしていて、ふちには鈍鋸歯（どんきょし）があります。

10月を過ぎ、紅葉の時期をむかえると、葉の色は緑色から黄色に変わり、落葉の準備を始めます。この時期、カツラの木は子供たちの園内案内には欠かさない植物のひとつになります。それは、一年でこの時期にだけ木の葉が甘い香りを漂わせるからです。まるで縁日のわたあめを連想させるその香り成分は「マルトール」と呼ばれるもので、砂糖を焦がした時に出る香りの成分と同じものです。もともとカツラの語源は「カツ」が「香り出」＝香出（かづ）からきているといわれています。木質部分に香りがあまりないことから考え、名前の由来は、この葉から漂う香りではなかったのでしょうか。

今年は、一年を通してカツラの木の「ツリーウォッチング」に挑戦してはいかがでしょうか。

参考文献：『植物の世界 90』 朝日新聞社



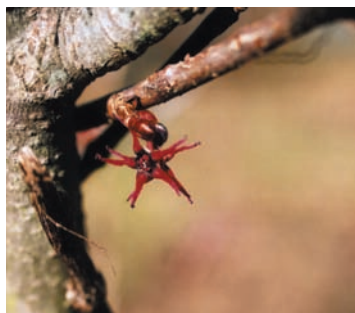
植物ウォッチング

～名前に色のついた
植物に注目～

いつものように植物図鑑を眺めていると「キ〇〇〇」とか「キン〇〇〇」といった、名前の前に色のついた植物の名前が目に残りました。隣に載っている植物の写真をみると、なるほどとうなずくことがほとんどですが、今回は、名前の前に色の付くものと付かない植物の中から、野草園で見比べることが可能な植物をとり上げて紹介したいと思います。



マルバマンサク(マンサク科)



ペニマンサク【マルバノキ】(マンサク科)

マルバマンサクとペニマンサク(マンサク科)

マルバマンサクは、3月頃他の樹木に先駆けて4個の線形の花弁を伸ばし、その花弁の色は一般に黄色をしています。ペニマンサク(マルバノキの別名)の場合、花弁の数は5個で、開花時の姿は星形をしています。名前のとおり、花の色は暗紅色をしています。開花時期も晩秋の11月と、マルバマンサクとは大変違った生活史を持っています。

イカリソウとキバナイカリソウ(メギ科)

どちらも樹林の林床に生える多年草です。この2種類は外見的にはほとんど同じような姿、形をしています。名前にもあるように、花の色が淡紫色と淡黄色とはっきりとした違いを持っています。また、分布的にも日本国内に広く分布するイカリソウに対して、キバナイカリソウは、近畿地方以北の日本海側から北海道までと異なる分布域をもっています。



イカリソウ(メギ科)



キバナイカリソウ(メギ科)

山形の山菜

コシアブラ

山形県外の方には馴染みの少ない山菜ではないでしょうか。コシアブラはウコギ科の落葉高木で大きなものでは樹高10mを超えます。樹皮は灰白色～灰褐色で皮目があります。木質は白く滑らかで、山形県米沢市では有名な木地玩具の「お鷹ぼっぼ」などの材料としても利用される木です。花は8月～9月にかけて枝先に円錐花序を伸ばし多数の花をつけます。葉は互生し、長い葉柄を持ち、倒卵状楕円形の5枚の小葉からできています。私たちが山菜として食用に供するのは、春先、展葉前の若芽になります。ウコギ科で、良く似た種類にタラノキがありますし、ウコギなども山菜として広く利用されているので食べられることに違和感はないかもしれません。食べ方としてはてんぷらや胡麻和えが一般的です。食味はタラノ芽よりもスマートで癖がなく食べやすいように思います。

コシアブラの名前は「漉し油」からきていると言われています。古くはこの枯葉の葉脈で油を漉したそうです。手のひらのように開いた葉(掌状複葉:しょうじょうふくよう)の小葉を1枚ずつ「コ」「シ」「ア」「ブ」「ラ」と数えると覚えやすいかも？





レンゲショウマ(キンポウゲ科)

キレンゲショウマ(ユキノシタ科)



レンゲショウマ(キンポウゲ科)と キレンゲショウマ(ユキノシタ科)

この二つの植物は、どちらも県内には自生していませんが、ショウマと名の付く他の植物と比較して見てもらうために植栽した植物です。素直に観察すればキレンゲショウマがレンゲショウマに似ているとは思えないのですが名前の由来は「黄色いレンゲショウマに似た植物」からきているそうです。

ミズヒキ(タデ科)とキンミズヒキ(バラ科)

この二つは、タデ科とバラ科に分類されています。詳しく見るとミズヒキは花弁を持たず、キンミズヒキはしっかりとした5個の花弁をもっていますから違いは一目瞭然です。ミズヒキの場合、赤花が基本ですが、白花のものもあって、この場合ギンミズヒキと呼ばれることもあります。

ミズヒキ(タデ科)



キンミズヒキ(バラ科)



クリンソウ(白花)



クリンソウ



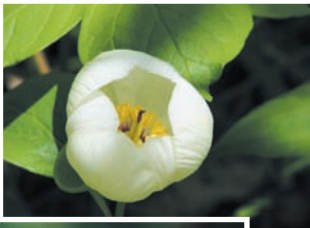
キツリフネ



ツリフネソウ

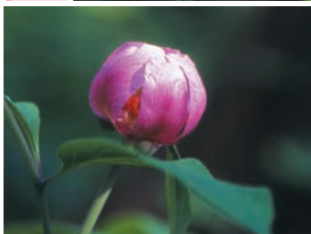


ヤマシャクヤク



園内で見られる 色違いの花たち

他にもあるので探してみよう!!



ベニバナヤマシャクヤク



レンゲツツジ



キレンゲツツジ



キズ月



ササバギンラン

お知らせ ～主な催し～

【平成21年度の開園は4月1日(水)です】

当日、先着100名に苗木・花苗をプレゼントします。

展示

平成20年度 写真コンテスト入賞作品展
 ……4/4(土)～4/29(水)
 春の山野草展 ……5/3(日)～5/6(水)
 ボタニカルアート作品展
 ……8/30(日)～9/13(日)
 きのご写真展 ……10/10(土)～10/25(日)
 平成21年度 写真コンテスト入賞作品展
 ……11/1(日)～11/23(月)

観察会

ガイドウォーキング…4月～11月まで毎週日曜日
 四季観察会 ……5/16(土)・7/18(土)・9/26(土) 10/24(土)・2/21(日)
 ホタル観察会
 ……7/3(金)～5(日)・7/10(金)～12(日)
 星空を見る会 ……9/12(土)
 蝶と花の観察会 ……9/19(土)
 バードウォッチング ……11/14(土)

体験教室

ハーブ石けん作り ……4/29(水)
 野草園オリエンタリング…5/6(水)・9/23(水)
 ポニー乗馬体験 ……4/29(水)・5/5(火)
 ガーデニング教室 ……5/9(土)
 山野草の育て方教室 ……6/23(火)
 工芸教室 ……7/20(月)・10/10(土)・11/7(土)
 親子草花遊び ……8/1(土)
 木の葉のしおり作り ……8/8(土)
 木工工作教室 ……8/15(土)
 工作コーナー ……8月の第1～第4日曜日

コンテスト

野草園の魅力を探る写真コンテスト
 ……応募締切り10/12(月)

その他

春の野草園祭り ……4/29(水)～5/6(水)
 秋の野草園祭り ……9/23(水)
 植物観察ときのご鍋 ……10/17(土)



工芸教室(漆塗り)



夏休み親子行事



風作りと風揚げ教室

※都合により内容の一部が変更になる場合があります。



この花を探せ!!

今回の花は見つけられるかな?



イワナシ(開花時期5月)

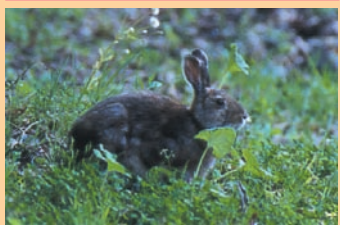


ショウブ(開花時期6月)



イワヒゲ(開花時期7月)

時々見かける来園者?



トウホクノウサギ

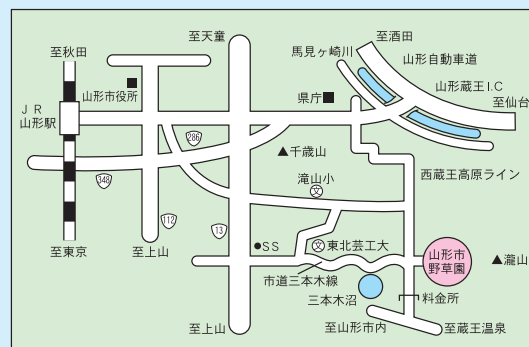
東北から山口県までの日本海側に分布。夏には褐色ですが、冬になると毛が白くなります。野草園内では、野草の丘の茂みがお気に入りの場所。冬の野草園で一番多く見られる足跡の主。

●開園時間等

- ・開園時間
 4月～5月 9:00～16:30
 6月～8月 9:00～18:00
 9月～11月 9:00～16:30
- ・休園日/毎週月曜日
 ただし、月曜日が祝日・休日の場合はその翌日
- ・冬期間休園/12月～3月
- ・入園料
 大人/300円
 高校生以下は無料
 団体割引(20人以上の場合)
 大人/240円
 高校生以下は無料

●交通案内

- ・JR山形駅より山形交通路線バス蔵王・野草園行き終点下車
- ・山形自動車道蔵王I.Cより蔵王高原ラインを蔵王温泉方面へ15分
- ・滝山小、東北芸術工科大学方面より岩波経由又は、市道三本木線経由で自家用車15分



野草園だより

編集・発行/山形市野草園

36号/平成21年3月発行(年2回発行)

〒990-2406 山形市大字神尾832番地の3

TEL 023(634)4120・FAX 023(634)4121

野草園のホームページ

<http://www.yasouen.jp>